

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年8月14日（金）

2 確認箇所

- ・共用プール建屋（図1）
- ・滞貨ヤード（2号機タービン建屋東側）、小割テント（1号機タービン建屋東側）、中割ヤード（1号機タービン建屋北側）（図1）

3 確認項目

- （1）共用プールにおける使用済燃料の保管状況
- （2）1号機原子炉建屋ガレキ小割解体ヤード等の整備状況

4 確認結果の概要

（1）共用プールにおける使用済燃料の保管状況

東京電力は、各原子炉建屋の使用済燃料プールに保管されている使用済燃料について、より安定した冷却・貯蔵が可能な共用プールへの搬出を計画しており、中長期ロードマップに基づき、令和13年以内に1～6号機の使用済燃料プールからの燃料取り出しを完了させることを目標としている。

今回は、共用プール建屋内に保管されている使用済燃料の保管状況を確認した。（前回確認：令和8年7月27日）

- ・共用プールの水位はオーバーフロー水位^{※1}付近に維持されており、使用済燃料が水中で安全に保管されていることを目視により確認した。また、共用プール内に浮遊物等の異物は認められなかった。（写真1）
- ・共用プール周辺の排水溝を確認したところ、水の漏えい等の異常は認められなかった。また、建屋地下階に設置されている漏えい検知装置（漏えい目視箱）についても、水の漏えい発生時の異常は認められなかった。（写真2）

※ 1 オーバーフロー水位：使用済燃料プールにおいて、冷却系が適切に運転している状態を示す基準水位。この水位を超えてオーバーフローした水は、スキマサージタンクに流入し、熱交換器やろ過器を通過したのち、再び使用済燃料プールへ戻される。

（2）1号機原子炉建屋ガレキ小割解体ヤード等の整備状況

東京電力は、福島第一原子力発電所1号機の使用済燃料プールに貯蔵されている計392体の燃料について、共用プールへの搬出を計画している。燃料取り出しに先立ち、1号機原子炉建屋を覆う大型カバー内において、ガレキの撤去、オペレーティングフロアの除染・遮へい、燃料取扱設備の設置等を行うこととしている。なお、撤去したガレキは、1号機原子炉建屋内で運搬容器（ベッセル等）に収納した上で、建屋外へ搬出し、所定の場所まで運搬する計画としている。

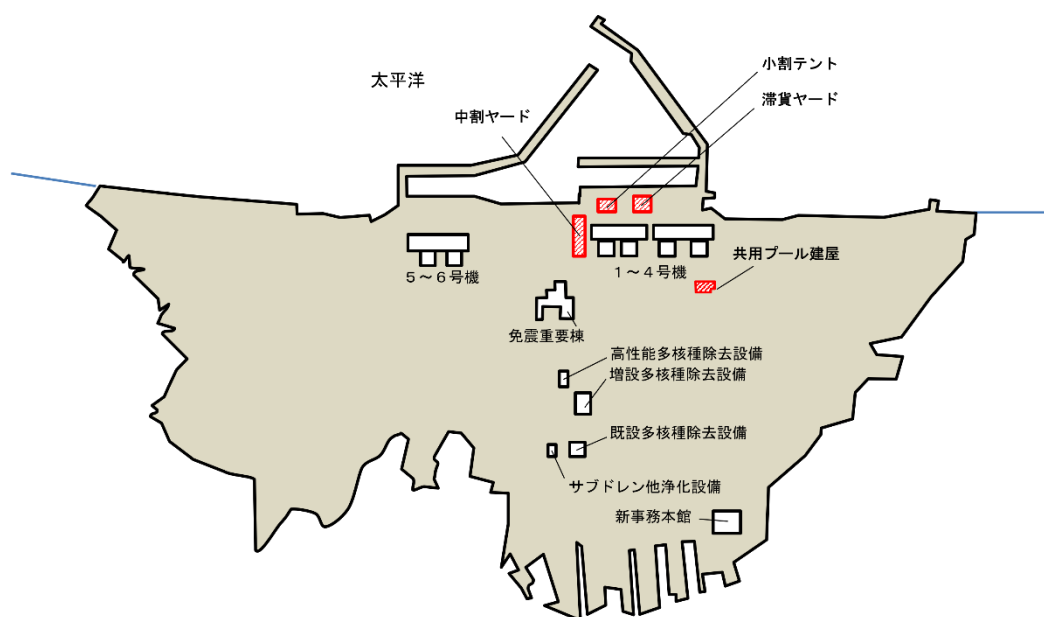
今回、ガレキ撤去作業に関連して、1号機原子炉建屋から搬出されたガレキの滞貨ヤード※²における保管状況、ガレキの切断等を行うために整備された小割テント※³及び中割ヤード※⁴の状況を確認した。（前回確認：令和8年7月17日）

- ・滞貨ヤードでは、1号機原子炉建屋から搬出されたガレキを収納した運搬容器（ベッセル）3基が保管されていた。滞貨ヤードは単管パイプで区画され、周囲にはガレキからの放射線を遮へいするため、コンクリート製のL型擁壁及び鉛製の遮へいシートが設置されていた。（写真3）
- ・小割テントは、外観上、設置が概ね完了していた。（写真4）
- ・中割ヤードでは、ガレキは保管されておらず、クレーンが仮置きされていた。（写真5）

※2 滞貨ヤード：1号機原子炉建屋において運搬容器に収納し建屋から搬出したガレキを一時的に保管する場所。

※3 小割テント：運搬容器に収納されたガレキを取り出し、小さく切断した上で固体廃棄物保管庫に収納するためにコンテナに移し替える施設。

※4 中割ヤード：1号機原子炉建屋のガレキのうちα核種による汚染がないものについて、大型カバー可動屋根から搬出した後、ガレキの切断等を行う場所。



（図1）福島第一原子力発電所構内概略図



(写真 1－1)
共用プールの状況①



(写真 1－2)
共用プールの状況②



(写真 2)
漏えい目視箱の状況



ベッセル

(写真 3－1)
滞貨ヤードでのベッセルの保管状況



遮へいシート

L 型擁壁

(写真 3－2)
滞貨ヤードにおける L 型擁壁及び遮へいシートの設置状況



(写真4)
小割tentの設置状況



(写真5)
中割ヤードの状況
※中割ヤード内は鉄板が敷かれて
いる

5 プラント関連パラメータ等確認

確認したデータについて、異常値は確認されなかった。